

経和会会報

発行 埼玉大学経済学部同窓会 経和会会長 田坂 敏幸 / 編集 広報委員長 古屋 久昭
さいたま市桜区下大久保255番地 TEL 048-858-9218 (印刷：望月印刷株)

経和会ホームページをご利用ください

URL <http://www.keiwakai.net>

メール webmanager@keiwakai.net

三学科を一学科に改組し、メジャー・マイナー制度を導入 〜平成二七年度からの経済学部改革〜

埼玉大学経済学部 学部長 薄井 和夫



法人化から十年。国立大学は、「ミッションの再定義」や「大学改革実行プラン」により、再び急速な改革期を迎えている。埼玉大学も大学の強化戦略を打ち出しているが、経済学部では、平成二七年度から、学部組織とカリキュラムの大幅な改革を決定した。これは、一単位四五時間の自修時間の確保を軸とした「大学教育の質的転換」(中教審)の提言を受け、全ての講義で双方向型・学生参加型の授業を行ない、学生の専門的基礎学力、汎用的能力、国際的展開力を涵養し、従来から経済学部が掲げている「社会科学の教育及び研究を通じ、自ら問題を発見し、分析し、解決することができる人材の育成」という教育目標を、より確実に実現するために行なわれる。

今回の改組では、経済学科、経営学科、社会環境設計学科という従来の学科構成をあらため、経済学科のみの一学科体制とし、その中に、①「経済分析」、②「国際ビジネスと社会発展」、③「経営イノベーション」、④「法と公共政策」という四つの「メジャー」を設置することとした。学生は、一年次に初年次教育として専門の基礎を学んだ上で、二年進級時にメジャーを選択する。これまでの三学科体制では、学科定員管理の必要性に縛られ、学科定員(経済百名、経営百名、社会環境八〇名)を厳格に満たすために、二年進級時に「不本意学科選択」をせざるを得ない学生が少なからず存在し

たが、一学科内でのメジャー選択によってこの弊害は除去され、原則として自らの意思通りにメジャーを選択できるようにになる。各メジャーでは、必修科目(二〇単位)、選択必修科目(三〇単位中二〇単位)、演習(四〜八単位)、卒業研究(八単位)が必修化され、それぞれ専門基礎学力を徹底して身につけるよう教育が行なわれる。他のメジャーの科目は選択科目として履修できるが、学部としては、他メジャーの科目をまとめて履修すること(二〇単位以上)を強く奨励し、これを「マイナー」として認定することを通じて、複眼的で多面的な思考力を身につけさせる。

さらに、英語による専門の入門科目を各メジャーの必修として配置し、また、英語による社会科学系「日本研究」科目をメジャー共通の選択科目として導入する。経済学部では、すでに平成二六年度から、前期「国際プログラム枠」入試を実施し(定員二〇名に対し志願倍率一〇倍と好評である)、その合格者を中心にグローバル・タレント・プログラム(英語によるプレゼミ、海外語学研修、一年間の海外留学、英語による卒論作成等々)を開始しているが、メジャー・マイナー制度に国際化教育を取り入れることで、社会科学の素養を基礎に国際的展開能力を身につけた日本人を育成する教育の裾野を広げることになる。以上の改革は、すでに文部科学省との事前協議も行なわれ、高い評価を得ている。平成二七年度はこの他にも改革が目白押しで、まさに経済学部再スタートの年になるであろう。

平成26年度

経和会総会の ご案内

一日時

- 総会：平成26年7月12日(土) 午後1時から
- 懇親会：同、午後2時30分より

二場所

- 総会：埼玉大学経済学部 A棟504教室
- 懇親会：第二大学生協 (建替られ新装オープンしました。)

☆山崎学長が懇親会に出席されます。

三 懇親会会費 5,000円

(現役学生・院生は無料です)

四 交通手段

- JR京浜東北線「北浦和駅」より、埼玉大学行きバス乗車15分程度
- JR埼京線「南与野駅」より、埼玉大学行きバス乗車10分程度

- JR埼京線「南与野駅」より、タクシー乗車では料金は1,000円程度

五 出席

6月27日(金)までに、同封の「はがき」にてお申し込みください。

埼大卒の新学長が誕生しました



埼玉大学理工学部出身の山口宏樹理事・副学長が4月より埼玉大学学長に就任いたしました。

初の卒業生学長の誕生です。卒業生として大変おめでたく嬉しい思いでいっぱい입니다。大学のホームページにある学長メッセージから抜粋し、埼玉大学に対する学長の熱い思いをお知らせいたします。

埼玉大学は、学部ごとに強み・特色・社会的役割を特定し、大学全体として行う機能強化のための戦略を、研究力の強化と人材育成の強化という形で自ら具現化しました。本学のこの構想「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革」(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの詳細をお知りになりたい方は大学のホームページをご覧ください。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

学長メッセージの再編・連携による大学改革(ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化)は、大学改革の先導的モデルとして文部科学省から高く評価され、2013年度国立大学改革強化推進事業に選定されています。これからはこの構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。

さらなる発展を期待して

経和会長 田坂 敏幸 (昭和47年卒)



会長に就任して7年が経ちますが、その間、経和会会員名簿第4号の発行、経済学部生への就職相談やセミナーの開催を毎年行い、さらに学生の保護者に対するニューズレターの発行や就職支援保護者セミナーも昨年で開催4回目となりました。

また、財政の健全化の取り組みとして、卒業生や学生保護者に対する終身会費納入のお願いを継続して行ってきました。その結果、財政的にもほぼ安定的な財政運営が固まってきました。昨年度は大学院のOB懇親、今年2月には経和会サロンを開催し、OB・OGの方々が経和会に参加・交流する企画をスタートさせました。

こういった状況を踏まえ、未熟な会長で皆さんに多々ご迷惑をお掛けしたことと思いますが、7月の経和会総会を持ちまして私は会長職を退任することといたしました。

思い起こせば、7年前、前会長の内藤勝久さんから「自分が同窓会の会長を伊藤正昭さんから引き継ぐので、お前、経和会長をやってくれ」と、言われ、

最後にありますが経和会の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

最後にありますが経和会の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成26年3月卒の就職状況

3月に卒業した271名の就職状況（26年3月18日現在）は下記のとおりであるが、公務員および金融業界への就職率が高く昨年とほぼ同数の公務員49名、金融64名となっている。公務員では昨年3名であったさいたま市が10名と伸ばした。一方東京都庁は0で、地方の県庁、市役所に14名が内定している。一方、金融では全国ブランドの金融機関が減り、地方金融機関へ21名が決まっている。大手金融機関が減ったのはテレビ番組の影響でもあるのだろうか。製造業界は27名と徐々にではあるが増えてきた。

また今年はJR東日本が採用方法の細分化の影響が6名と大きく伸ばした。

全体的に見ると地方学生が増加し、Uターン就職も増えている一方、県内や都内の高校の出身者が減ってきている。

経済学部を機に県内や首都圏の高校に対し国立大学の経済学部の魅力をPRしてはどうだろうか。

平成26年3月卒 主な内定先リスト（平成26年3月18日現在）

公務員	49	金融	64	SMBC	コーセー	1	日本放送協会	1	
埼玉県庁	3	大和証券	5	フレンド証券	1	RIXIL	1	ニトリ	1
さいたま市	10	りそなグループ	4	中央労働金庫	1	岡村製作所	1	エームサービス	1
国家公務員（財務 2、通産3、他2）	7	三菱東京UFJ フィナンシャル	2	地方金融機関	21	全薬工業	1	ヤオコー	1
東京都特別区（北、 板橋、杉並）	3	日本郵政	2	七十七銀行	4	日揮	1	山九	1
埼玉県警	2	日本政策金融公庫	2	群馬銀行	2	月島機械	1	日本マクドナルド	1
県庁（青森2、岩手、 群馬2、栃木2、 沖縄）	8	東京センチュリー・ リース	2	足利銀行	2	三菱アルミニウム	1	ファミリーマート	1
地方市役所（埼玉・ 東京を除く）	6	あいおいニッセイ 同和損保	2	八十二銀行	1	ディーエイチシー	1	大塚商会	1
		三井住友銀行	1	栃木銀行	1	サイサン	1	テレビ山梨	1
		第一生命	1	その他	11	太陽石油	1	会計事務所関係	3
				製造業等		ヒロセ電気	1	大学院進学等	6
				森永製菓	1	サービス等		埼玉大学、上智大学、拓 殖大学の各大学院ほか	
				リンナイ	1	東日本旅客鉄道	6		

就職支援保護者セミナー開催

経済学部3年の保護者を対象とした就職支援セミナーが経済学部で開催されました。（11月2日）

当日はむつめ祭の開催にあわせて設定したこともあって、東北や九州など全国から約50名の保護者が参加されました。

まず、最近の就職活動の進め方について解説が行われた上で、埼玉大生の就職先が金融と公務員に偏っていること、広い観点から業界研究・企業研究はどう進めるべきか、などについて説明されました。また、親の果たすべき役割は規則正しい生活や健康面を温かくサポートすること、人生の先輩として仕事観や経験談を話すこと、ブラック企業を選んだ場合は強権発動も厭わない、などの話に皆さん熱心に耳を傾けメモを取っておられました。

保護者就職支援セミナーは国立大学では珍しい企画であり、本学でも毎年経済学部のみで開かれています。日頃、不安を感じながらお子さんを見守ることしかできない保護者の皆さんにとって、少しでも勇気付けになれば幸いです。ご参加の皆さん、お疲れ様でした。



熱心に聴きメモを取る参加者



就職カウンセラーによる説明

3年次向け就活セミナー開催

「ゼミ連との連携進む」

今年は経済学部ゼミ連との連携が昨年以上に進展しました。

ゼミ連代表の羽澤 学さんが中心となり、経和会の就職支援を取り入れ次の活動として展開されています。

1. 経済学部棟における就職相談を毎週火・木の二日実施しています。11月中旬からはいつも6名の定員一杯の申し込みが続いています。

これは経済学部生の内定先が公務員と金融に偏っており、大学が目指すグローバル人材の育成とかけ離れた学生の行動を少しでも変革しようとの試みで、製造業、商社などの業界を積極的に紹介するなどしています。

2. 秋から3回シリーズの就活セミナーを開催しました。ゼミ連が全学の学生に呼びかけ実施しました。民間への就職支援体制が不十分な教育学部や理工大学院の学生なども参加しています。

第一回：良い就活、悪い就活

第二回：企業の選び方とエントリーシートの書き方

第三回：志望動機の書き方と勝てる面接対策



経済学部と経和会とのコラボ実現



萩野弘二氏



会川精司氏

昨年度は薄井学部長のグローバル人材を養成するという理念に呼応し、経和会では「グローバル・ビジネスを語る」と題した経済学部生向けに4回のセミナーを実施しました。

分かりやすい内容から専門的な内容まで織り交ぜ、卒業生各氏に講師を依頼し実現しました。

講師の皆さん、準備を含め、お疲れ様でした。

第一回：「華僑から学ぶビジネス精神—船舶保険営業を通じて—」田坂敏幸氏（S47年卒）

第二回：「アメリカ持株会社から見たグローバル経営」萩野弘二氏（S45年卒）

第三回：「未知の世界に飛び込む—SE からイタリア語通訳を経てアートマネジメントへ—」柳澤ひとみ氏（S60年卒）

第四回：「ベトナムにおける日系企業のビジネス展開と投資環境—日越国交40周年の時点から2020年を予測する—」会川精司氏（S47年卒）

埼玉大学ホームカミングデー

埼玉大学ホームカミングデーは、同窓生が旧友や恩師と再会し、また、現役教職員との親睦を深めていただくため、そして何より「母校の近況を知っていただきたい」という思いを含めた企画であり、埼玉大学同窓会の全面的なご協力の下、平成25年11月2日(土)に開催され、多くの同窓生が母校に足を運んでくださいました。



会場風景



和やかな雰囲気での交流会

経済学部の寄附講座

経済学部には寄附講座など存在しないと考えるOB・OG諸氏も多いかもしれないが、それは昔の話。現在では、次表のように少なからぬ寄附講座が開設されている。

官公庁と民間、経営者と労働者の別を問わず、実際の仕事や現場に対する学生の関心は高く、多くの授業が盛況のうちに行なわれている。「寄附講座を提供したいという申し入れは、現在でも継続的に来ており、科目をもう少し体系的に整理することが必要な時期にさしかかっているのかもしれない」と薄井学部長は述べておられる。

平成23年度経済学部開講寄附講座一覧

テーマ	寄付者	履修者数	開講学期
働くということと労働組合	日本労働組合総連合会	77	後期
現代銀行経営論	埼玉りそな	141	前期
損害保険概論	日本損害保険協会	73	後期
地域経済と財政・金融の現状	関東財務局	243	後期
各種業界における社会貢献活動	経営倫理実践センター	97	後期
農的暮らしと社会	日本有機農業研究会	32	後期
流域自給と交流		23	前期

海外にも報道された 商品開発セミナー

平成二三年度の経済学部の新企画として、埼玉県産業技術総合センター、さいたま市産業創造財団、富士通のご協力により、富士通が所有している「休眠特許」を利用して、学生が商品開発を行なうという商品開発セミナーを行ない、薄井ゼミ、吉田ゼミが参加した。

この企画は、まず五月八日に、関係者全員が揃ってのキックオフ・ミーティングで幕を開けた。

ここで、富士通の四種類の休眠特許が紹介され、それぞれの特許に対して、薄井ゼミから四チーム(二



2013年12月4日 新都心ビジネス交流プラザ
最終報告会での薄井ゼミ学生と関係者

～三年生
全員参加、吉田ゼミから二チーム(選抜参加)が組織された。五月二二日に起業支援ネットワーク代表理事増田紀彦氏の講演を通じて商品アイ

ディアの創出方法を学んだ後、学生はゼミの時間以外で自主的なグループワークを展開し、六月二九日と七月一〇日に二度の「中間報告会」を開催して、富士通などからの助言を得た。夏休み中も、学生は自主的な会合を重ね、九月には埼玉県内のメーカーを訪問して自分たちのアイデアを売り込み、商品化への実現可能性を探った。この企業訪問にはNHKの取材が入り、また、一月六日の薄井ゼミ独自の「最終準備会」にもNHKの取材が入った。

こうした経過を経て、一二月四日、新都心ビジネス交流プラザで「特許ライセンスを活用した新事業展開inさいたま」と銘打ち、最終報告会が行なわれた。ここには、埼玉県の製造企業の役員が招待されただけでなく、経済産業省特許庁知財産業活用企画調整官、経済産業省関東産業経済局課長補佐、経済産業省産業技術環境局大学連携推進課係長の皆様など官公庁関係者、埼玉県信用金庫地域支援グループ、武蔵野銀行地域サポート部、埼玉りそな産業経済振興財団など銀行関係者など、合計六〇名を超える聴衆の参加を得た。この状況は、NHK首都圏ネットワークなどで報道され、また、NHK国際放送でも世界一四〇ヶ国に向けて報道された。

この企画は、学生参加型の授業「アクティブ・ラーニング」の新しい形態として、学生の自主的な意欲を引き出し、学生がマーケティング論などを学ぶ意欲の源泉となった。NHKの国際放送は、米国や英国のビジネス・スクールの教員や理事などからも大きな関心を寄せられており、国際的にも新しい経営学教育のあり方として注目されている。

ゼミ生による埼玉県知事への政策提言

経済学部の学部ゼミ生たちによる埼玉県知事への政策提言は、2010年度から開始され、4回にわたりに行われている。提言のテーマは、埼玉県側から、行政が現実的に抱える課題が提示される。毎年、4ないし5つのゼミナールの学生たちが課題に取り組み、提言の報告会では、一つ一つの発表ごとに上田知事からコメントや質問が投げかけられ、学生にとって、知事と直接対決するというまたとない機会になっている。2012年度に学生たちが行った提言は、実際に県の事業に採用され、学生たち自身が編集・取材した若者向けの県の広報紙「埼玉記」として発行されている。

(文責：松本正生)

第一回経和会サロンが 開催されました。

2月22日(土)の午後、経済学部社会人大学院の授業が行われている東京駅サピアタワーの東京ステーションカレッジで経和会サロンが開催され、多くのOB OGや現役の大学院生が参加しました。

集まった会員を対象に経済学部長の薄井和夫教授のマーケティング講義「なぜ経営戦略が現場に理解されないのか」―知識経営学と実践コミュニティ論―が行われ、皆さん熱心に耳を傾けていました。終了後、活発な質疑応答がなされ、皆さん、久しぶりの学生生活に戻った気分を味わっていました。

最後に薄井先生からは是非皆さんへ、このステーションカレッジの、経済学部・社会人大学院(夜間)にて学んでくださいとの呼びかけを持ってお聞きとなりました。また、次回もご期待ください。



埼玉大学 NOW

第3回 サークル紹介

「After Beat Club」

After Beat Club(通称「アフタビ」)は、埼玉大学のダンスサークルだ。各種イベントやコンテストなどでダンスを披露してくれる彼らはほぼ全員が初心者からのスタート。だがとてもそうとは思えない素晴らしいダンスを毎回披露してくれる。その秘密は運動神経やセンスよりも、練習熱心さにあると思う。空き時間があれば体育館などで練習に励む、とてもエネルギーが豊富な人たちが集まるサークルである。ダンスの



ジャンルはブレイキン、ロック、ヒップホップ、ハウス、ガールズビップポップの5種。それぞれのジャンルごとに分かれ、先輩が後輩に技を教えるという形で練習している。そのため、先輩、後輩関わらず、とても仲の良いサークルである。大学生活の中で興味惹かれるものは数多くあると思うが、その中でダンスに出会い、ひたむきに打ち込む姿からは刺激を受ける。アフタビのダンスを見られるのは、アフタビ主催のイベントや、むつめ祭など。実際に彼らのダンスを見て、ぜひその熱量を感じてみてほしい。

BIG SHOT

2月に行われたこのBIG SHOTというイベントは、今年初めて開催された埼玉大学学生団体F.P主催のバスケット3on3の大会だ。バスケットやバスケットサークルをはじめ、友達同士や同じ高校出身者での集まりなど、大学内外から16チームもの参加があった。



当日は会場となった体育館にDJブースが設けられ、その日は特に冷え込む日だったにも関わらず開始前から熱気があふれていたが、試合が始まるとさらに盛り上がりを見せ、観客からも歓声が上がっていた。トーナメント形式で行われた試合は勝ち進んでいくとともにより一層白熱した試合が繰り広げられ、また、素晴らしいプレーの連続で、シュートが決まるたびに会場が湧き上がっていた。今回のイベントはバスケットと音楽を組み合わせた斬新なものであった。試合を通してチーム同士の交流も深まり、参加していた選手も楽しんでいたようで、活気のある良いイベントだったと思う。

第64回むつめ祭 開催報告

ミス埼玉大に初めて

経済学部生

2013年11月2日・3日・4日の3日間にわたり第64回むつめ祭が開催された。当日は生憎の曇り空であり、台風の可能性も懸念される時期であったが、悪天候に見舞われることなく3日間開催することができた。第64回にちなみ、今年のスローガンは「64(ムシ)

できない祭りが埼玉大(コ)にある」。このスローガンには、みんなが興味を持ち、足を運びたいようなむつめ祭にしようという思いが込められている。毎年3万人を超える来場者を誇り、今年も大勢の来場者が訪れた。10代、20代の学生をはじめとした若い世代の方々はもちろんのこと、その一方で家族連れの方々の来場も目立つ。流石、年齢を問わない祭りとして60年以上開催されているだけのことはある。

さて、むつめ祭の2大イベントといえば、まず一つ目に、1日目に開催されたミス埼玉大コンテストではないだろうか。ミス埼玉大コンテストでは昨年引き続き、オープニング・ファッションショー・フィナーレの3部構成で行われ、多くの観客で賑わいを見せた。今年ミスに輝いたのは経済学部経済学科の松井美南さんであり、なんと、まだ1年生である。ミス埼玉大としての今後のどのようにに埼玉大学を盛り上げてくれるのか、活躍に期待したい。

そしてもう一つのむつめ祭の目玉といえば、毎年恒例3日目のお笑いライブ。今年はお笑い少女、エハラマサヒロの3組に出演していただいた。入場無料ということもあって、多くの観客が押し寄せた。盛況ぶりは見事なもので、流石はプロのお笑い芸人、押し寄せた観客たちを瞬く間に笑いの渦に巻き込んだ。来年は誰が来るのか、どう楽しませてもらえるのか見物である。



私の交流録

〔経和会〕株式会社テレビ埼玉
代表取締役社長 平本一郎氏
(昭和53年卒) 対談



インタビュー・・・
インタビュアー・・・
船越裕美
(経済学部平成19年卒)

船越・・・テレビ埼玉の特徴について教えてください。

平本・・・一番の特徴は地域のスポーツに力を入れていることです。(プロスポーツは)

試合中継だけでなく、応援番組も制作しています。試合中継と応援番組の両方を放送しているローカル局は多くありません。

プロスポーツ以外にも高校スポーツ(野球、サッカー、ラグビー等)も放送しています。幅広いスポーツをコンテンツとして持っているのがテレビ玉最大の特徴です。

船越・・・幅広い地域のスポーツへの放送対応は「地域のスポーツを育てる」というミッションで行っているのでしょうか。

平本・・・昭和53年にテレビ玉は開局しましたが、その年に西武ライオンズが埼玉に移転し、ライオンズ中継を放送するようになりました。

Jリーグは元々地域密着として始まっていますが、プロ野球もそれぞれの本拠地の地元テレビ局が放送するトレンドになっていきます。テレビのメインコンテンツは「スポーツ」と「ニュース」です。

県内のアスリートたちが活躍していくもを取り上げていき



たい。放送を通じて応援していく。テレビ玉の先人たちは、地域のスポーツコンテンツは地域で取り上げ、発信していこうという考えの下で取り扱いは始めたのでしょうか。

船越・・・平本社長は埼玉大学に在学中、どのような学生生活を過ごされていらっしゃいましたか。

平本・・・大きな声では言えませんが、不面目な学生でした(笑)。自宅は北浦和ですが、大学にはあまり行かず、気が付くと東京に向かっていました。東京で映画を観たり、ジャズを聴いたりしていました。ゼミ活動は、松島ゼミで「日本現代主義発達論」を学んでいました。

船越・・・大学時代の一番の思い出は何でしょうか。

平本・・・昭和53年1月に中国に3週間行ったことです。北京、南京、上海等を周りました。現地の学生の熱心さや勉強に対する貪欲さに驚きました。夜な夜な向学心の高い現地の学生が訪ねてきました。学生代表として訪中するにあたり勉強しなければならぬと思い、ポストンバッグいっぱい経済書籍を持参したのですが、現地の学生に贈りました。そのお札にと胡弓をもらいましたね。現地の学生がお金を出し合っ

て贈ってもらったので感動しました。日本が長い歴史の中で学んできたのは中国。中国に関心があります。若い時にその激動の中国を目の当たりに出来たことはかけがえのない経験であり財産です。

船越・・・テレビ玉の社長として心掛けていらっしゃることをお聞かせ下さい。

平本・・・ここ最近、異常気象が多いですね。地元埼玉でも竜巻や大雪などの被害がありました。非常時に災害速報等の放送対応が出来ないと意味がありません。

ライフラインの情報、公共交通機関の情報など視聴者が一番欲しい情報を迅速に伝えることが求められています。

船越・・・災害の時など視聴者は自分の地域を知りたいのでしょね。テレビ玉だから伝えられることはありますね。

平本・・・地方局ですから、キイ局との差別化を図るためには、「自分の住んでいる地域の情報が知りたい」というニーズに臨機応変に応えなければなりません。だから視聴者の皆さんは地元テレビ局を観るのです。

災害の規模は関係ありません。また、それが良

いニュースなのか、悪いニュースなのかでもありません。

その時々によって状況は変わって、世の中は、「不確実性」で溢れています。マニュアルは大切

ですが、全てをマニュアルに落とし込むことは不可能です。マニュアルではなく、「自分で考える習性」を常に心掛けるよう社員には伝えています。

船越・・・今後テレビ玉をどのような会社にしていきたいのか、お聞かせ下さい。

平本・・・いくら収益性が上がっても、地域のユーザーの皆さんに情報を提供出来なければ意味がありません。そして、娯楽の一つでも報道機関であり続けることです。地域にいかに入り込んでいくかを考える必要があります。

その一方、ローカルでありながらマルチユースに使えるコンテンツを開発していく。つまり、テレビ玉だけでなく全国に通用するコンテンツを開発していくことも必要です。その二つのバランスを付けて取り組んでいくことが大切です。

船越・・・大学の同窓生、そして在学中の学生たちへのメッセージをお聞かせ下さい。

平本・・・現在、テレビ玉には埼玉大学の経済学部の卒業生が(私も含めて)4人しかおられません。地元の人が、地元のことをよくわかっている人たちで、創っていききたいです。

ここにいらっしゃる皆さんと出会ったきっかけが経和会だったので、経和会だけでなく、もっと職域間の交流を深められるようにしていきたいですね。業種別の交流会といったものを増やしていきたいですね。



第8回 むつめゴルフコンペ報告

出口雅史(むつめゴルフコンペ幹事)

平成25年10月23日、大宮国際カントリークラブで第8回むつめゴルフコンペが開催されました。参加者は前回は12名を上回る73名となりました。

優勝は、ネット70・2(グロス87)で回った松崎正代さん(経済学部S48卒)準優勝に高田千俊さん(工学部S43卒)、3位に小林千秋さん(経済学部S48卒)が入りました。73名中42名がスコア100を切るハイレベルな戦いとなりました。

また、今大会をもって大崎鼎さん(経済学部S45卒)が幹事を退任されました。大崎さんが幹事を務めた前回大会から参加者が急増しました。むつめゴルフコンペの発展に寄与された大崎さんのご活躍に、心から感謝申し上げます。

今回の第9回むつめゴルフコンペは、平成26年10月22日(水)に大宮国際カントリークラブで開催予定です。Facebook「埼玉大学同窓会」によるむつめゴルフ会」に掲載しますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

以下、経済学部・文学部卒の参加者(敬称略)

- 松村雄(S38文理)、坂口信幸・斎藤洋(S40文理)、鎌田勝男・木暮裕児・高橋達夫・西ヶ谷浩正・沼野芳夫・吉田実彦・吉田祐次(S42文理)、星野幸彦(S44)、石田肇・大崎鼎・太田博・佐渡晋一郎・竹内洋・萩野弘二・細越博資(以上S45)、杵鞭弘恭(S46)、鈴木均(S47)、古賀行雄・小林千秋・松崎正代・若杉順一(S48)、手嶋毅・三村典秋(S57)、出口雅史(H12)



恩師からの便り

近況

名誉教授 鎌倉 孝夫

埼玉大在籍38年（1961～1999年）、助手、講師、助教授、教授、学部長（1期）を経験しました。38年間ほとんど一貫して『資本論』を読んできました。授業は、経済学史と経済原論、ゼミも『資本論』中心でした。1999年度には『埼玉大学50年史』の編集委員長を務めました。2000年～2006年の間、福島県いわき市にある東日本国際大学学長を経験しました。

現在、相変らず論文執筆、学習会、講演活動を行なっています。政治が混迷を深め、経済もバブルその崩壊―さらに大規模なバブルをくり返している状況なので、論文執筆、講演の機会はむしろ増えています。今まで築いてきた資本主義経済解明の論理の真価が問われていると思います、この現状を科学的に解明しようとする論理をさらに鍛えなければならぬ、と考えています。

私の研究の集大成として、『資本論』エッセンス―全3巻の論理の正確な把握、残された問題、その解決の方向提起―を執筆中です。これに関連して、いま『資本論』を読む会を浦和で開いています（毎月第1土、14:00～17:00）。これには、埼玉大名誉教授、卒業生も多数参加しています。経和会の皆さんで参加の希望がありましたら是非連絡して下さい。

なお、埼玉大OB、在籍した教師の有志で現在研究中の課題について、現役の学生に講義したり、現役の教師などとの研究会等を開いて、寄与したいという話をまとめ、学長と相談を始めています。経和会とも相談したいと思っています。

活躍する教授紹介

近田 典行（ちかだ のりゆき）

経済学部教員として10年が経過した。埼玉大学の学生は大方真面目である。それぞれが卒業後の目標を探し、それをつかもうとしているようだ。それが10年間学生たちと接して得た埼玉大生に対する感想である。その中で、担当している科目が会計学ということもあり、必然的に、公認会計士や税理士、国税専門官を目指す学生たちとの交流が多い。毎年現役または卒一年で会計士試験に毎年複数（6名という年度もある）合格する。だからこそ、埼玉大生の質を証明するデータといえる。

また、自分たちで何かを成し遂げること、に貪欲でもあり、ゼミ活動も楽しい学びの時間である（写真は、ディベート・コンペのときのもの）。

ゼミ出身の会計士も増えてきたので、将来と一緒に研究活動をするなどの展望も持っている。私の専門は、企業不動産に関する会計の研究というテーマであることから、不動産業や建設業に関わる、研究団体の委員会のメンバー、会計基準委員会の専門委

【定年退職】
 教授…鈴木 邦夫 近現代日本経済論
 教授…安藤 陽 公企業論
 教授…孤田 文夫 国際経営論・科学技術論
 教授…宇佐美洋一 経営学
【勸奨退職】
 教授…尾西 正美 人事・労務管理論
【他機関へ転出】
 教授…後藤 和子 財政学、文化経済学

員、自治体の委員会などを頼まれるが、そんな場で教え子と相まみえることがあればと夢見るのも楽しみの一つである。

話は変わり、企業会計の現状は、投資環境の国際化の波の中で、投資家の投資意思決定のための情報として機能する会計情報を作るための基準の統一化を進めている。TPPの進展のようなものである。その国益のぶつかる競争的話し合いの中で、しっかりと自らの主張を勝ち取ることが求められる。また、企業活動の現場で他国の会計プロフェッションと議論ができるような素養を身につけ対等に渡り合うためにも大学教育が果たさなければならぬ役割は小さくない。しっかりととした理論教育とリテラシー教育で足腰のしっかりした学生をこれから送り出していくことが埼玉大学の使命と考えている。



25年度	最優秀論文	清水 洋子	「外国人投資家と日本の企業経営」
	優秀論文	坂 亮太	「VOLCKER RULEに関する米議会議事録の分析」
表彰		久松 美穂	「地域ブランディング戦略の課題―茨城県を事例として―」

編集後記
 今回は、薄井学部長の多大なご協力により、大学関連の記事がたいへん充実いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。
 新しい試みは、埼玉大学OGがテレビ埼玉社長ヘインタビュー訪問したことです。平本社長、お忙しい中ありがとうございました。
 大きなトピックスは、やはり、長い歴史の中、埼玉大学の学長が初めて誕生したことです。OB、OGの皆さまもさぞ喜びのことだと思えます。新しい埼玉大学に期待したいと思います。